

Veritas NetBackup™ スタートガイド

リリース 8.0

VERITAS™

Veritas NetBackup™ スタートガイド

マニュアルバージョン: 8.0

PN: 21353428

法的通知と登録商標

Copyright © 2015 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティ（「サードパーティプログラム」）の所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこの製品に含まれる **TPIP ReadMe File** を参照してください。

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

Made in Singapore.

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを有しています。テクニカルサポートの主な役割は、製品の特徴や機能に関する具体的な問い合わせに対応することです。テクニカルサポートグループは、オンラインナレッジベースのコンテンツも作成します。テクニカルサポートグループは、その他の部門と連携して、迅速にお客様の質問に回答します。

ベリタスが提供しているメンテナンスには、次のものが含まれます。

- 任意のサイズの組織に合わせた適切な量のサービスを選択できる柔軟性を備えた幅広いサポートオプション
- 迅速な応答と最新の情報を提供する、電話および/または Web によるサポート
- ソフトウェアアップグレードを配信するアップグレード保証
- 各地域の営業時間、または年中無休の 24 時間体制のグローバルサポートを購入可能
- アカウント管理サービスを含むプレミアムサービスの提供

ベリタスが提供しているメンテナンスについて詳しくは、次の URL の Web サイトを参照してください。

www.veritas.com/support

すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

テクニカルサポートへの連絡

現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.veritas.com/support

テクニカルサポートに連絡する前に、製品のマニュアルに一覧表示されているシステム要件を満たしていることを確認します。

テクニカルサポートに連絡するときは、次の情報が使用できるようにしてください。

- 製品のリリースレベル
- ハードウェア情報
- 使用可能なメモリ、ディスク容量および NIC の情報
- オペレーティングシステム
- バージョンおよびパッチレベル
- ネットワークポロジ

- ルーター、ゲートウェイおよび IP アドレスの情報
- 問題の説明:
 - エラーメッセージとログファイル
 - テクニカルサポートに連絡する前に行ったトラブルシューティング
 - 最近のソフトウェア構成の変更およびネットワーク変更

ライセンスおよび登録

製品の登録またはライセンスキーが必要な場合には、次の URL にあるテクニカルサポートの Web ページにアクセスします。

www.veritas.com/support

カスタマーサービス

カスタマーサービスの情報は次の URL で利用できます。

www.veritas.com/support

カスタマーサービスは、次の問題のような技術的でない質問に利用可能です。

- 製品のライセンスまたはシリアル化に関する質問
- 住所または名前変更のような製品登録の更新
- 製品の一般情報（機能、対応言語、地域の取り扱い業者）
- 製品の更新およびアップグレードについての最新情報
- アップグレード保証およびサポート契約についての情報
- テクニカルサポートのオプションに関するアドバイス
- 発売前の技術的なことではない質問
- CD-ROM、DVD、またはマニュアルと関連した問題

サポート契約のリソース

既存のサポート契約に関してベリタス社にお問い合わせの際は、次に記載する対象地域のサポート契約管理チームにお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

目次

テクニカルサポート	4
NetBackup スタートガイド	8
NetBackup について	8
NetBackup システムの動作	9
NetBackup システムを環境に合わせて動作させる方法	10
NetBackup ソフトウェアの入手について	10
NetBackup メディアキットについて	10
NetBackup の電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージについて	12
NetBackup のマニュアルについて	12
NetBackup のライセンスの要件について	12
Veritas Services and Operations Readiness Tools について	13
SORT の新規インストールのための推奨手順	14
SORT のアップグレードのための推奨手順	18
UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件	20
Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要件	24
NetBackup 8.0 のバイナリサイズの要件	29
NetBackup インストールの準備方法	30
NetBackup の構成について	31
NetBackup マニュアルの入手方法	32

NetBackup スタートガイド

NetBackup について

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Microsoft Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。

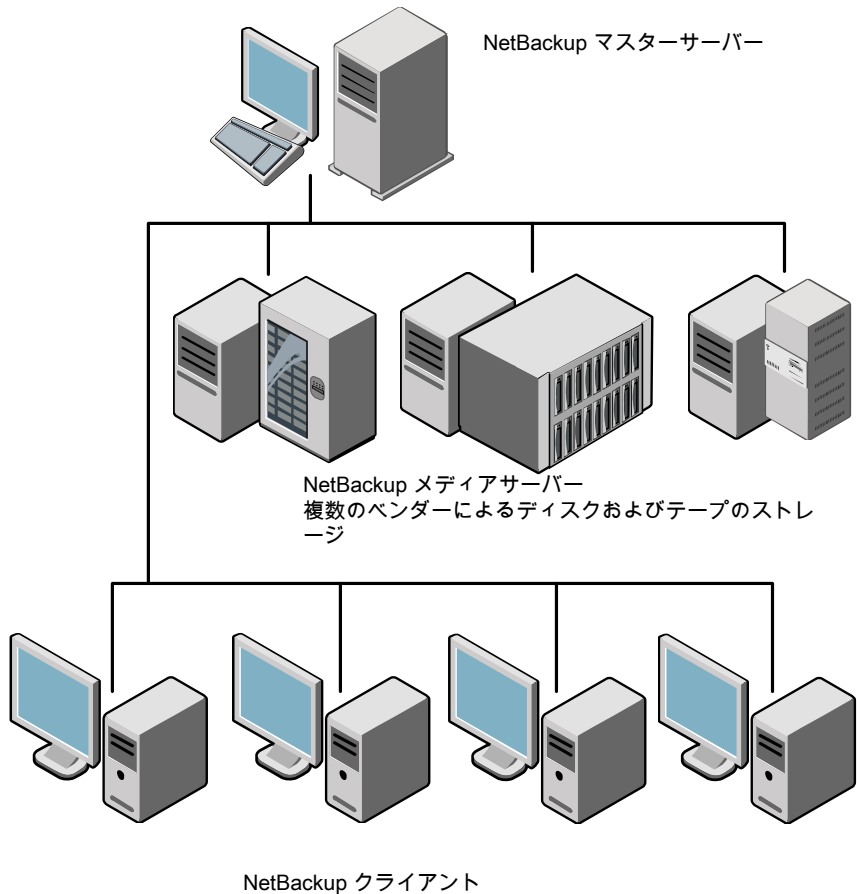
NetBackup では、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブおよびリストアすることができます。

NetBackup には、次のサーバーおよびクライアントソフトウェアが含まれます。

- サーバーソフトウェアは、ストレージデバイスを管理するコンピュータ上に存在します。
 - マスターサーバーでは、バックアップ、アーカイブおよびリストアが管理されます。マスターサーバーで構成したバックアップポリシーによって、バックアップするコンピュータ (クライアント) やファイルが決まります。また、NetBackup で使用されるメディアやデバイスを選択します。マスターサーバーに NetBackup カタログが格納されます。このカタログには、NetBackup バックアップおよび構成の情報を含む内部データベースが含まれます。
 - メディアサーバーでは、メディアサーバーに接続されているストレージデバイスを NetBackup で使用可能にすることによって、追加のストレージが提供されます。また、メディアサーバーを使用すると、ネットワークの負荷を分散させることによってパフォーマンスを向上できます。メディアサーバーは、デバイスホストとも呼ばれます。
- クライアントソフトウェアは、バックアップを行うデータが存在するコンピュータにインストールします。(また、クライアントソフトウェアはサーバーにも含まれており、サーバーのバックアップを行うことができます。)

また、NetBackup では、複数のサーバーが連携して動作するように、1 台の NetBackup マスターサーバーの管理下でサーバーが制御されます (図 1 を参照)。

図 1 NetBackup の環境の例



p.13 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup システムの動作

バックアップまたはアーカイブ中に、クライアントは、ネットワークを介して **NetBackup** サーバーにバックアップデータを送信します。**NetBackup** サーバーは、バックアップポリシーで指定された形式のストレージを管理します。

ユーザーは、リストア中に、リカバリするファイルおよびディレクトリを表示して選択できます。選択したファイルおよびディレクトリは **NetBackup** によって検索され、クライアントの

ディスクにリストアされます。リストアについて詳しくは『NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド』を参照してください。

NetBackup システムを環境に合わせて動作させる方法

バックアップを行うタイミングは、ポリシーによって決定されます。ポリシーには、NetBackup クライアント (サーバー主導バックアップ) の自動的な無人バックアップのスケジュールを設定できます。また、ポリシーには、ファイルのバックアップおよびリストアを手動で実行可能な時間帯を定義できます (ユーザー主導の操作)。ポリシーについて詳しくは『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1 UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

NetBackup 管理者は、ネットワーク内のクライアントに対して、定期的またはカレンダーを基準として自動的な無人バックアップを実行するスケジュールを設定できます。バックアップを適切にスケジュールすることで、一定期間にわたって計画的に完全なバックアップを実行し、ネットワークの使用頻度が高い時間帯を避けて通信量を最適化することができます。

バックアップには、完全または増分を指定できます。完全バックアップでは、すべてのクライアントファイルがバックアップされます。増分バックアップでは、前回のバックアップ以降に変更されたファイルのみがバックアップされます。

NetBackup の管理者によって許可されている場合、ユーザーは、自分のコンピュータからファイルのバックアップ、リストアまたはアーカイブを行うことができます。(アーカイブ操作では、正常にバックアップが完了すると、元のファイルがソースディスクから削除されます。)

NetBackup ソフトウェアの入手について

NetBackup 8.0 は次の形式で入手可能です。

- DVD メディアキット
すべての必要なソフトウェアとマニュアルファイルは複数の DVD で提供されます。
p.10 の『NetBackup メディアキットについて』を参照してください。
- 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ
MyVeritas Web サイトにある DVD イメージファイルをダウンロードできます。
p.12 の『NetBackup の電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージについて』を参照してください。

NetBackup メディアキットについて

メディアキットは各々のサポート対象の UNIX プラットフォームまたはオペレーティングシステム用の DVD と Windows 用の 1 枚の DVD を含んでいます。各 DVD のラベルには、内容についての簡潔な説明が記載されています。キットの印刷資料は、『NetBackup スタートガイド』を含んでいます。

表 1 は各 DVD の内容を記述します。

表 1 NetBackup 8.0 DVD の内容

プラットフォーム OS	内容
AIX 64 ビット	サーバーとサポート対象のオプション
HP-UX IA64	サーバーとサポート対象のオプション
Linux RedHat x86_64	サーバーとサポート対象のオプション
Linux SUSE x86_64	サーバーとサポート対象のオプション
Solaris SPARC64	サーバーとサポート対象のオプション
Solaris x86-64	サーバーとサポート対象のオプション
Windows の場合	<ul style="list-style-type: none"> ■ サーバーとサポート対象のオプション ■ すべての x64 クライアント ■ すべての x86 クライアント
Linux zSeries RedHat x64	メディアサーバーとサポート対象のオプション
Linux zSeries SUSE x64	メディアサーバーとサポート対象のオプション
UNIX クライアント 1	<ul style="list-style-type: none"> ■ AIX ■ HP PA-RISC および IA64 ■ Solaris SPARC および X86
UNIX クライアント 2	すべての Linux プラットフォーム
LiveUpdate 形式 1 のクライアント	<ul style="list-style-type: none"> ■ AIX ■ HP IA64 ■ すべての Linux プラットフォーム ■ Solaris SPARC および X86
LiveUpdate 形式 2 のクライアント	<ul style="list-style-type: none"> ■ HP PA-RISC ■ すべての Windows プラットフォーム
Windows の OpsCenter	すべての Windows プラットフォーム
UNIX または Linux の OpsCenter	すべての UNIX または Linux プラットフォーム
OpenVMS (CD 形式)	OpenVMS の NetBackup クライアント

メモ: ESX の NetBackup vCenter プラグインは MyVeritas のダウンロードサイトから電子的に利用可能です。このプラグインは保守契約の下でお客様が自由に利用できます。MyVeritas ダウンロードサイトへのアクセス情報を記載した電子メールは NetBackup 7.6.1 が一般に利用可能になったときに送信されました。詳細情報が利用可能です。

p.12 の「[NetBackup の電子ソフトウェア配布 \(ESD\) イメージについて](#)」を参照してください。

NetBackup の電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージについて

NetBackup 8.0 の ESD イメージは MyVeritas の Web ページからダウンロード可能です。イメージは 1.8G のサイズ制限に従っています。

ESD のダウンロードを正しく行うために、一部の製品イメージがより小さく管理しやすいファイルに分割されています。ファイルを解凍する前に、1 of 2、2 of 2 として識別できる分割されたイメージファイルを最初に結合する必要があります。MyVeritas 上の Download Readme.txt ファイルには、ファイルを結合する方法が記述されています。

p.10 の「[NetBackup ソフトウェアの入手について](#)」を参照してください。

p.10 の「[NetBackup メディアキットについて](#)」を参照してください。

NetBackup のマニュアルについて

NetBackup のマニュアルは DVD や ESD イメージに含まれていません。次の Web サイトから NetBackup のマニュアルにアクセスしてダウンロードすることができます。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

PDF ファイルのマニュアルを表示するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。次の URL の Adobe Web サイトからこの製品をダウンロードできます。

<http://www.adobe.com>

ベリタスは、Adobe Acrobat Reader のインストールおよび使用についての責任を負いません。

NetBackup のライセンスの要件について

NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーのソフトウェアをインストールするには、NetBackup 製品のライセンスを入力する必要があります。

ライセンスを入手するには、NetBackup 製品を発注するときにライセンスの SKU を発注する必要があります。

発注後、ベリタスは次の情報を含むライセンス証明書を添付した電子メールを送信します。

購入済みの NetBackup のライセンスのリスト このリストは発注した製品のライセンスすべてを含んでいます。安全な場所にこのリストを保管してください。テクニカルサポートに問い合わせる場合に、製品のライセンスが必要になることがあります。

NetBackup 製品をダウンロードするためのアクセス用のシリアル番号 DVD メディアキットの代わりに、NetBackup 製品インストール用の電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージをダウンロードするためにこのシリアル番号を使うことができます。

次の Web サイトに移動し、システムに ESD イメージをダウンロードするためにこのシリアル番号を入力します。

<http://my.veritas.com>

NetBackup をインストールするときには、メッセージが表示されたらマスターサーバーで他のすべての製品ライセンスを入力することを推奨します。これらのライセンスを後で追加することもできますが、マスターサーバーのソフトウェアをインストールするときにそれらを入力する方が簡単です。

NetBackup のライセンスの管理方法について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト

このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。

- **Hotfix と EEB Release Auditor**
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムとベリタスエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**
このツールを使用すると、今後新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後置き換えられることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、他社製品の統合、ベリタス製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.15 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.15 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.16 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.17 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email address) 電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.veritas.com/netbackup>

- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけて選択します。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。NetBackup では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。

3 [データコレクタ (Data Collectors)]タブを選択します

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。

6 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。

7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。**8** メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。**9** [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。

10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。**12** インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。**14** タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。ベリタスはフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 3

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.15 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.16 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.17 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.19 の「 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法 」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.19 の「 Hotfix と EEB の情報を確認する方法 」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

- 4 [検索 (Search)]をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件

表 4 は NetBackup のインストールのために UNIX と Linux システムを準備するための要件を記述します。各項目に対応するためにチェックリストとしてこの表を使ってください。インストールの必要条件に関する最新情報について詳しくは SORT Web サイトを参照してください。SORT に関する詳しい情報を参照できます。

p.13 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

表 4 UNIX および Linux での NetBackup のインストールおよびアップグレード要件

チェック	要件	詳細
	オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ■ UNIX と Linux の互換性のあるオペレーティングシステムの完全なリストについては、次の Web サイトで『Software Compatibility List (SCL)』を参照してください。 http://www.netbackup.com/compatibility https://sort.veritas.com/netbackup

チェック	要件	詳細
	メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のマスターサーバーごとに、最低 8 GB のメモリを搭載する必要があります。 ■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のメディアサーバーごとに、最低 4 GB のメモリを搭載する必要があります。 ■ 本番環境では、いずれのクライアントにも最低 512 MB のメモリを搭載する必要があります。 ■ NetBackup-Java インターフェースの適正なパフォーマンスのため、512 MB の RAM が必要です。その領域のうち、256 MB はインターフェースプログラム (jnbSA または jbpSA) で利用可能である必要があります。 <p>メモリの要件についての追加情報に関しては、『NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide』を参照してください。</p> <p>http://www.veritas.com/docs/DOC5332</p>
	ディスク領域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 必要となる正確な空き領域はハードウェアプラットフォームによって決まります。このトピックに関する詳細情報を参照できます。 8.0 の NetBackup リリースノート http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ NetBackup カタログには、バックアップについての情報が含まれているため、製品の使用に伴ってサイズが大きくなります。カタログに必要なディスク領域は、主に、次のバックアップ構成によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ バックアップ対象のファイル数。 ■ バックアップの間隔。 ■ バックアップデータの保持期間。 <p>空き容量など、領域に問題がある場合は、NetBackup を代替のファイルシステムにインストールすることができます。インストールの際に、代替のインストール場所を選択して、<code>/usr/openv</code> からの適切なリンクを作成することができます。</p> <p>メモ: ディスク領域の値は初回インストール用です。NetBackup カタログはマスターサーバーが本番環境になっているときにかなり多くの領域を必要とします。NetBackup カタログのサイズ変更の要件について詳しくは、『NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide』を参照してください。</p> <p>http://www.veritas.com/docs/DOC5332</p>

チェック	要件	詳細
	一般要件	<ul style="list-style-type: none"> ■ gzip および gunzip コマンドがローカルシステムにインストールされていることを確認してください。これらのコマンドがインストールされているディレクトリは、root ユーザーの PATH 環境変数設定に含まれている必要があります。 ■ すべてのサーバーに対する、すべての NetBackup インストール DVD または ESD イメージ、有効なライセンス、および root ユーザーのパスワード。 ■ サポートされているハードウェアでサポートされているバージョンのオペレーティングシステム (パッチを適用済みであること) を稼働しているサーバー、十分なディスク領域、およびサポートされている周辺装置。これらの要件について詳しくは、『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ すべての NetBackup サーバーがクライアントシステムを認識し、またクライアントシステムから認識されている必要があります。一部の環境では、それぞれの /etc/hosts ファイルに対して、もう一方の定義を行う必要があります。また、他の環境の場合は、ネットワーク情報サービス (NIS) またはドメインネームサービス (DNS) を使用することになります。 ■ 画面解像度には 1024 x 768、256 色以上が必要です。
	クラスタシステム	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup クラスタ内の各ノードで ssh コマンド、rsh コマンド、または同等のコマンド (HP-UX システムでは remsh) を実行できることを確認します。root ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログインできる必要があります。このリモートログインは、NetBackup サーバー、NetBackup エージェントおよび別ライセンス製品のインストールと構成を行うときに必要です。インストールおよび構成を完了した後は不要になります。 ■ NetBackup をインストールする前に、クラスタフレームワークをインストールして構成し、起動しておく必要があります。 ■ DNS、NIS、/etc/hosts ファイルを使って仮想名を定義しておく必要があります。IP アドレスも同時に定義します。(仮想名は IP アドレスのラベルです。) <p>クラスタ要件に関する詳細情報を参照できます。 『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』 http://www.veritas.com/docs/DOC5332</p>
	NFS の互換性	<p>NFS マウントされたディレクトリへの NetBackup のインストールはサポートされていません。NFS マウントしたファイルシステムのファイルロックは確実にない場合があります。</p>
	カーネルの再構成	<p>一部の周辺機器およびプラットフォームでは、カーネルの再構成が必要です。 詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332</p>
	Red Hat Linux	<p>Red Hat Linux の場合、サーバー用のネットワーク構成にする必要があります。</p>

チェック	要件	詳細
	他のバックアップソフトウェア	この製品をインストールする前に、現在システムに構成されている他のベンダーのバックアップソフトウェアをすべて削除することをお勧めします。他のベンダーのバックアップソフトウェアによって、NetBackup のインストールおよび機能に悪影響が及ぼされる場合があります。
	Web サービス	<p>NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー（またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード）で使用できる必要があります。これらの必須アカウント要素は、インストールの前に作成しておく必要があります。詳しくは以下のURLを参照してください。</p> <p>https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000081350</p> <p>メモ: ベリタスは、NetBackup Web サービスのために使うユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。マスターサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントと資格情報が必要です。</p> <p>メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法については詳しくは、次をご覧ください。</p> <p>https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115774</p> <p>デフォルトでは、UNIX インストールスクリプトは、Web サーバーをユーザーアカウント nbwebsvc およびグループアカウント nbwebgrp に関連付けようとします。これらのデフォルト値は、NetBackup インストール応答ファイルに上書きできます。UNIX のインストールスクリプトを開始する前に、ターゲットホストに NetBackup インストール応答ファイルを設定する必要があります。NetBackup インストール応答ファイルにカスタム Web サーバーアカウント名を次に示すように設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。 2 任意のテキストエディタでファイル /tmp/NBInstallAnswer.conf を開きます。ファイルが存在しない場合はファイルを作成します。 3 次に示す行を追加して、デフォルトの Web サーバーユーザーアカウント名を上書きします。 <pre>WEBSVC_USER=custom_user_account_name</pre> 4 次に示す行を追加して、デフォルトの Web サーバークラスアカウント名を上書きします。 <pre>WEBSVC_GROUP=custom_group_account_name</pre> 5 ファイルを保存して閉じます。

Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要件

表 5 は NetBackup のインストールのために Windows システムを準備するための要件を記述します。各項目に対応するためにチェックリストとしてこの表を使ってください。

インストールの必要条件に関する最新情報について詳しくは SORT Web サイトを参照してください。SORT に関する詳しい情報を参照できます。

p.13 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

表 5 Windows および Windows クラスタでの NetBackup のインストールおよびアップグレード要件

チェック	要件	詳細
	オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最新のオペレーティングシステムパッチと更新を適用したことを確認します。オペレーティングシステムが最新のものかどうか不明な場合は、ご購入先にお問い合わせのうえ、最新のパッチおよび更新版を入手してください。 ■ Windows の互換性のあるオペレーティングシステムの完全なリストについては、次の Web サイトで『Software Compatibility List (SCL)』を参照してください。 http://www.netbackup.com/compatibility
	メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のマスターサーバーごとに、最低 8 GB のメモリを搭載する必要があります。 ■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のメディアサーバーごとに、最低 4 GB のメモリを搭載する必要があります。 <p>メモリの要件についての追加情報に関しては、『NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332</p>

チェック	要件	詳細
	ディスク領域	<ul style="list-style-type: none"> ■ NTFS パーティション。 ■ サーバソフトウェアおよび NetBackup カタログに対応するために必要となる正確な空き領域は、ハードウェアプラットフォームによって決まります。このトピックに関する詳細情報を参照できます。 8.0 の NetBackup リリースノート http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ アップグレードの場合は、Windows がインストールされているドライブに、さらに 500 MB のディスク領域が必要になります。アップグレードの完了後は、この領域は不要です。 ■ NetBackup カタログには、バックアップについての情報が含まれているため、製品の使用に伴ってサイズが大きくなります。カタログに必要なディスク領域は、主に、次のバックアップ構成によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ バックアップ対象のファイル数。 ■ バックアップの間隔。 ■ バックアップデータの保持期間。 ■ ディスクストレージユニットボリュームまたはファイルシステムで 5% 以上の利用可能なディスク容量を確保することを推奨します。 <p>メモ: ディスク領域の値は初回インストール用です。NetBackup カタログはマスターサーバーが本番環境になっているときにかなり多くの領域を必要とします。NetBackup カタログのサイズ変更の要件について詳しくは、『NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332</p>
	一般要件	<p>以下の項目すべてがあることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup インストール DVD か ESD イメージ ■ ■ すべてのサーバーの管理者アカウントとパスワード ■ 画面解像度は 1024 x 768、256 色以上に設定してください。 <p>メモ: Windows 2008 Server、Windows 2008 R2 Server、Windows 2012 R2、Windows 2012 UAC が有効な環境で NetBackup をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、UAC が有効な環境で NetBackup をインストールできません。管理者グループのユーザーが NetBackup をインストールできるようにするには、UAC を無効化します。</p>

チェック	要件	詳細
	リモートインストールおよびクラスターインストール	

チェック	要件	詳細
		<p>リモートインストールおよびクラスタインストールには、前述のすべてのインストール要件に加えて、次のガイドラインが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ クラスタ内のすべてのノードで、同じバージョンのオペレーティングシステム、Service Pack および NetBackup を実行している必要があります。サーバーのオペレーティングシステムに異なるバージョンを混在させることはできません。 ■ インストールのアカウントには、すべてのリモートシステムまたはクラスタ内のすべてのノードの管理者権限が必要です。 ■ インストール元のシステム (またはプライマリノード) では、Windows 2008/2008 R2 Server/Windows 2012/2012 R2 のいずれかを実行している必要があります。 ■ インストール先のコンピュータ (またはクラスタノード) に Windows 2008/2008 R2/Windows 2012/2012 R2 のいずれかがインストールされている必要があります。 ■ Remote Registry サービスはリモートシステムで開始する必要があります。 NetBackup 7.5.0.6 以降で、NetBackup のインストーラはリモートシステムの Remote Registry サービスを有効にし、開始できます。Remote Registry サービスが開始されない場合、インストールは次のエラーメッセージを受信します。 Attempting to connect to server server_name failed with the following error: Unable to connect to the remote system. One possible cause for this is the absence of the Remote Registry service. Please ensure this service is started on the remote host and try again. ■ NetBackup の仮想名と IP アドレス NetBackup で利用可能な仮想名および IP アドレスを用意します。インストール中に、この情報を入力する必要があります。 ■ メディアサーバーのクラスタのサポートの変更 NetBackup 7.1 からは、クラスタ化されたメディアサーバーの新しいインストールを実行することはできません。ただし、クラスタ化された既存の 6.x メディアサーバーは NetBackup 8.0 にアップグレードして、クラスタ化されたままにできます。 ■ Windows Server Failover Clustering (WSFC) <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup グループによって使用される共有ディスクがクラスタ内で構成され、アクティブノードでオンラインになっている必要があります。 ■ NetBackup を共有ディスクが存在するノード (アクティブノード) からインストールします。 ■ コンピュータ名またはホスト名は 15 文字より長い名前には設定できません。 ■ Cluster Server (VCS) のクラスタ <ul style="list-style-type: none"> ■ SFW-HA 4.1 と SFW-HA 4.2 の場合: バージョン 7.x をインストールするか、またはバージョン 6.x からアップグレードする前に、次の Web サイトからパッチをインストールしてください。 http://entsupport.veritas.com/docs/278307 ■ NetBackup をインストールする前に、すべての NetBackup ディスクリソースを、Veritas Enterprise Administrator (VEA) で構成しておく必要があります。 ■ クラスタノードのデバイス構成とアップグレード クラスタをアップグレードする場合、ltid およびロボットデーモンは、特定のクラスタノードのデバイス構成を EMM データベースから取得します。EMM データベースでのデバイス

チェック	要件	詳細
		<p>構成の格納または取得は、クラスタノード名 (gethostname を使用して表示) によって行われます。クラスタノード名は、デバイス構成の更新時 (ltid によるドライブ状態の更新時など) に使われます。クラスタノード名は、デバイスの接続先を示す場合にのみ使用されま す。NetBackup の仮想名は、ロボット制御ホストなど、他の目的にも使用されます。</p> <p>クラスタ要件に関する詳細情報を参照できます。</p> <p>『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』</p> <p>http://www.veritas.com/docs/DOC5332</p>
	リモート管理コンソールのホスト名	<p>マスターサーバーのインストール中に、リモート管理コンソールホストの名前を入力する必要があります。</p>
	NetBackup 通信	<p>ネットワークがすべてのサーバーおよびクライアントから認識され、相互に通信できるように構成されていることを確認します。</p> <p>通常は、ping コマンドを実行してサーバーからクライアントにアクセスできるように設定されてい れば、NetBackup でも正しく動作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup サービスおよびポート番号は、ネットワーク全体で同じである必要があります。 ■ デフォルトのポート設定を NetBackup サービスとインターネットサービスのポートに使うこ とを推奨します。ポート番号を変更する場合は、すべてのマスターサーバー、メディアサー バーおよびクライアントに対して同じ値を設定する必要があります。ポートエントリは、次の ファイルに格納されています。 <p>%SYSTEMROOT%\system32\drivers\etc\services。デフォルト設定を変更する には、NetBackup のカスタムインストールを行うか、services ファイルを手動で編集する 必要があります。</p>
	CIFS マウントされ たファイルシステ ム	<p>CIFS マウントされたディレクトリへの NetBackup のインストールはサポートされていません。 CIFS マウントしたファイルシステムのファイルロックは確実でない場合があります。</p>
	ストレージデバイ ス	<p>ロボットおよびスタンドアロンテープドライブなどのデバイスが製造元の指示どおりに取り付けら れ、Windows ソフトウェアから認識されている必要があります。</p>
	サーバー名	<p>サーバー名の入力を求められたら、適切なホスト名を常に入力してください。IP アドレスを入 力しないでください。</p>
	バージョンの混在	<p>使用を計画しているクライアントの最新バージョンと同じかそれ以上のリリースレベルの NetBackup サーバーをインストールしてください。サーバーソフトウェアのバージョンが古い場 合、新しいバージョンのクライアントソフトウェアとともに使用すると、問題が発生する可能性があ ります。</p>

チェック	要件	詳細
	Windows 2008/2008 R2 Server Core、2012/2012 R2 Server Core でのインストール	NetBackup はこれらのコンピュータにサイレントインストール方式でのみインストールできます。
	他のバックアップソフトウェア	現在システムに構成されている他のベンダーのバックアップソフトウェアをすべて削除します。他のベンダーのバックアップソフトウェアによって、NetBackup のインストールおよび機能に悪影響が及ぼされる場合があります。
	Web サービス	<p>NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー（またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード）で使用できる必要があります。詳しくは以下の URL を参照してください。</p> <p>https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000081350</p> <p>メモ: ベリタスは、NetBackup Web サービスのために使うユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。マスターサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントと資格情報が必要です。</p> <p>メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法について詳しくは、次をご覧ください。</p> <p>https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115774</p>

p.20 の「UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件」を参照してください。

NetBackup 8.0 のバイナリサイズの要件

NetBackup バイナリが必要とする容量に関する情報は動的で、リリースごとに異なります。最新情報であることを確認するために、『NetBackup 8.0 リリースノート』のバイナリサイズ情報を確認することをお勧めします。

オペレーティングシステムのバージョンサポートの最新情報については、SORT のインストールとアップグレードのチェックリストまたはソフトウェア互換性リスト (SCL) を参照してください。

- SORT
<https://sort.veritas.com/netbackup>

- ソフトウェア互換性リスト (SCL)
<http://www.netbackup.com/compatibility>

NetBackup インストールの準備方法

次の表は NetBackup のインストールの前に対応する必要があるキーポイントを記述します。各項目に対応するためにチェックリストとしてこれらの表を使ってください。

表 6 は NetBackup をインストールする前にバックアップ環境で実行する必要があるタスクを記述します。

表 6 インストール前のタスク

チェック	インストール前のタスク
	他社のバックアップソフトウェアを削除します。
	バックアップ環境のすべてのコンピュータの最新のオペレーティングシステム (OS) の更新をインストールします。
	すべてのストレージデバイスの最新の更新をインストールして構成し、それらが OS と連携して動作することを確認します。
	画面解像度を最低 1024x768、256 色に設定します。

表 7 は NetBackup をインストールするときに必要な情報を記述します。

表 7 NetBackup のインストール情報

チェック	必要な情報
	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup メディアキットか ESD イメージ ■ 購入した NetBackup および他のすべての NetBackup 製品のライセンスキー ■ 『NetBackup インストールガイド』 http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ NetBackup リリースノート http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	マスターサーバーの名前 (完全修飾ドメイン名と短縮名) メモ: サーバー名の入力を求められたら、適切なホスト名を常に入力してください。IP アドレスを入力しないでください。
	メディアサーバーの名前 (完全修飾ドメイン名と短縮名) メモ: サーバー名の入力を求められたら、適切なホスト名を常に入力してください。IP アドレスを入力しないでください。

チェック	必要な情報
	クライアントの名前 (完全修飾ドメイン名と短縮名)
	ユーザー名とパスワード
	管理者アカウントのクレデンシヤル バックアップ管理者に NetBackup をインストールする管理者権限がなければなりません。
	インストールする予定のリモート管理コンソールのホストの名前 (マスターサーバーのインストール時)。

バックアップ環境に関係する表のすべての項目をチェックしたら、**NetBackup** のインストール準備ができています。

NetBackup の構成について

サーバーおよびクライアントにソフトウェアをインストールした後、バックアップの格納場所を設定または構成する必要があります。**NetBackup** 管理コンソールはいくつかの構成ウィザードを提供します。構成ウィザードを使用すると、ファイルの格納場所、およびストレージとして使用するメディアデバイスを構成することができます。

NetBackup 管理コンソール	NetBackup 管理コンソールは、 NetBackup の構成および操作に役立つグラフィカルユーザーインターフェースです。コンソールが開いている状態では、キーボードの F1 キーを押していつでもヘルプを起動できます。
ストレージデバイスの構成 (Configure Storage Devices)	NetBackup で使うストレージデバイスを構成するには、このウィザードを使います。ウィザードはデバイスのシリアル化を使ってロボットライブラリとロボットドライブを構成します。
ディスクストレージサーバーの構成 (Configure Disk Storage Servers)	新しいストレージサーバーを使うためにストレージサーバーとディスクプールを作成および構成するには、このウィザードを使います。
クラウドストレージサーバーの構成 (Configure Cloud Storage Server)	NetBackup がクラウドストレージプロバイダにデータを送信できるようにするためにクラウドストレージサーバーとディスクプールを作成するには、このウィザードを使います。
ディスクプールの構成 (Configure Disk Pool)	ディスクプールを使うためにディスクプールとストレージサーバーを作成および構成するには、このウィザードを使います。
ボリュームの構成 (Configure Volumes)	リムーバブルメディアをバックアップで使うように構成するにはこのウィザードを使います。

カタログバックアップの構成
(Configure the Catalog
Backup)

このウィザードを使用すると、NetBackup 構成およびカタログ情報のバックアップ方法とタイミングを指定できます。カタログバックアップは、サーバーの障害やクラッシュの発生時にデータをリカバリするために必要です。

NetBackup マニュアルの入手方法

Adobe Portable Document Format (PDF) には、Veritas NetBackup Web サイトにある NetBackup のマニュアルのコピーがあります。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

PDF ファイルのマニュアルを表示するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。これは次のサイトからダウンロード可能です。

<http://www.adobe.com>

NetBackup のマニュアルセット全体のリストは、『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』の付録に記載されています。